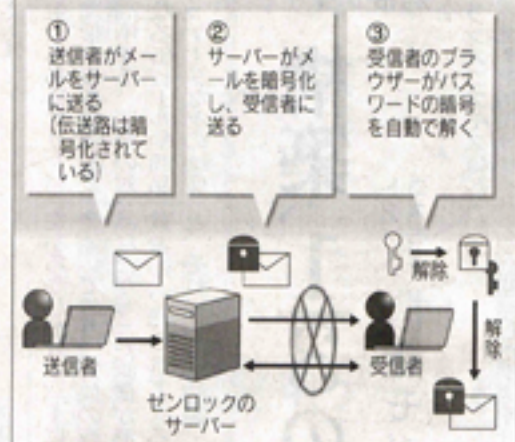


## 日経産業新聞

## ゼンロックのメール暗号化サービスの仕組み



電子メールの暗号化はメール本文や添付ファイルを暗号化することで、伝送途中で内容を盗み見られるリスクを少なくする。システムを構築する際には送信側の企業に専用サーバーを置くケースが多い。

新サービスは「ゼンロック コンプライアンスプラス」。メールの送付側がパソコンのメールソフトの送信サーバーをゼンロックが保有する専

システム関連会社のゼンロック(東京・中央、アマール・アヤロン社長)は電子メールを暗号化して送信できるサービスを始め、顧客企業が社内に専用サーバーを構築したり、専用ソフトウェアを導入したりする手間を省けるのが特徴。社内情報などの漏洩(ろうじょう)が相次ぐなか、メール暗号化の需要は伸びると判断した。

## ゼンロック メール暗号化、サービス型で 社内サーバー構築不要

用サーバーに指定。ゼンロックのサーバーに送られた送信メールを自動的に暗号化して相手に送信する仕組み。導入が容易

なインターネット経由の「SaaS(サービス)」型で提供し、顧客のすそ野を広げる。

メール暗号化の方式にはウィンドウズOS(基本ソフト)などを搭載する「ZIP方式」を採用。受信側は専用ソフトを導入しなくても、パスワードがあれば暗号を解読できるようにした。

は暗号化したうえで、ゼンロックのウェブサイトにメールアドレスを登録し、ブラウザ(閲覧ソフト)経由でサイトを通じて入手する。メールや電話による伝言方法と異なり、キーワードが盗まれる危険性を減らせるという。

送信のあて先を誤ることなどで機密情報を流出させた場合には、解読用の

のキーワードの配布を止めることで、情報流出を少なくする。

ライセンス価格は送信アカウントが101以上で、1アカウント年間9000円(税抜き)。メールサーバー販売を手がけるフラグシップテクノロジー(東京・豊島)が主に販売を担当。今後1年間で3万アカウントの獲得を目指す。